

強化

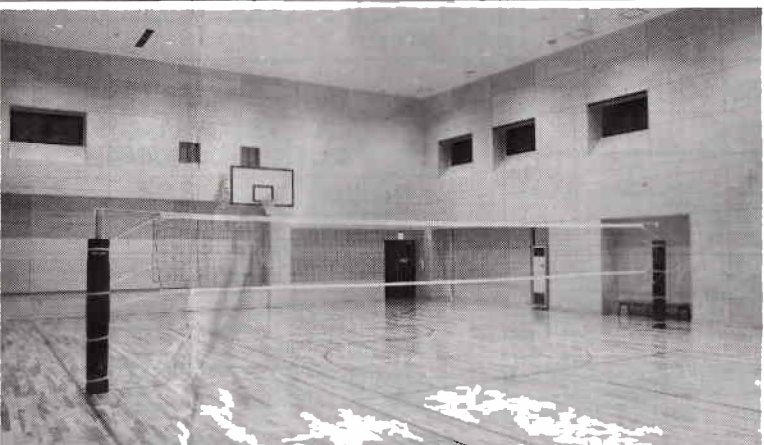
が多いため、個室を19室用意。新棟全体では約4割を個室とした。

各個室は18×20mの広さでユニットシャワーを備える。4床室も36m以上あり、余裕を持った設計。病室ごとに空調の温度設定ができ、照明にLEDを使用し、調光も可能だ。

救命救急センターは19床から30床への増床を終えており、今後はICU病床も増やすなど、救命救急受け入れ体制を拡充していく。

のレリーフなどを内装に配し、落ち着いた雰囲気を出している。

現在、各病棟の引っ越し作業中で、本格稼働は年明けとなる見通し。同病院では、今後、順次既存棟の改修を計画。2月からは、病棟の移設スペースを活用し、NICUを3床から6床に増やし、GCU6床の新設工事も開始する。



多目的ホールは、さまざまなスポーツや作業療法で活用していく

多目的ホール竣工

スポーツ活用しデイケア充実

五稜会

北区の五稜会病院（中野、診療機能の拡充を図る。島公博理事長、千丈雅徳院長・193床）は、5月

月から建設を進めていた多目的ホールと既存棟の改修工事が竣工。スポーツを活用したプログラムによるデイケアの充実な

は、2階建て延べ700㎡で、1階がピロティ方式の駐車場とカフェテリア、カウンセリングルーム3室で、2階が330㎡の広さの多目的ホールとなつている。当初、6月に2期工

事は完了する計画だったが、資材や工事関係者の人件費高騰などの影響で、1期工事から工期が遅れ、見積もりオーバーも生じ、2期工事では業者選定の見直しを余儀なくされ、大幅な遅れが生じた。完成した多目的ホールは、ミニバスケットボールやミニバレーボール、フットサルなど本格的なスポーツもできるよう設備を整えた。既存のスポ

ーツジムと一体的に活用して、患者の生活リズム調整や、基礎体力づくりのほか、競技を通して協調性や社会性を学ぶプログラムも実施。フットサルチームなど対外的なチームづくりも進めていく考えだ。同病院では、48床のストレスケア・思春期病

棟を展開していることら、近年、若い女性患者が増加している。こうした患者が気軽に利用できるように、プライバシー配慮を徹底。デイケア入院患者用の専用玄関設けたほか、既存棟を修して本格的なデザインづくりも可能な女性専用のキッチンスタジオを設けた。

の受け入れをスムーズにする臨時入院病床（12床）や短期入院病床（11床）を新たに確保。ニーズが増える緩和ケアの専門病床を2床から6床に増床した。

1階カフェは、北歐イメージし、カラフルいすやテーブルを配内装にも部分的にカラーを配色するなど、病棟らしくない雰囲気を目立たしめた。